

所 沢 市 平和推進事業のまとめ

平成 2 7 年度

経営企画部企画総務課

所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成 2 年 6 月 22 日議決、同年 7 月 1 日告示

目 次

広島平和記念式典参加事業	1
所沢市平和大使「広島平和記念式典参加」感想文	5
所沢市平和を語る会(語り部派遣事業)	14
所沢市平和祈念資料展	19
資料編	21
所沢市平和推進事業の歩み	22
広島市旧庁舎被爆敷石について	23



広島平和記念公園・原爆死没者慰霊碑

広島平和記念式典参加事業



原爆ドーム
(広島平和記念公園内)

《広島平和記念式典参加事業概要》

【 期間 】平成27年8月5日（水）～ 6日（木）

【参加者】市内在住の大学生3名、中学生2名
市議会代表2名、事務局2名
計9名

【 概要 】毎年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式（広島平和記念式典）」に参加し、原爆死没者を追悼し、世界の恒久平和を願うものです。

さらに、広島市内の被爆施設や資料館への見学も行い、戦争の悲惨さや平和の尊さを実感する機会となっています。

市民代表の方が一緒に参加される現在の形になって今回で25回目となります。また、平成19年度からは、市民代表者の対象者を中学生から大学生までの方としています。

この事業は、戦後70年が経過し、唯一の被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方が被爆地である広島に赴いて式典に参加し、実際に見て触れることで、原爆死没者への追悼や戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識していただくためのものです。

行程

8月5日(水)

所沢市平和大使(市民代表)5名と市議会議員を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島へと向かった。

広島市到着後、平和大使らは、宿泊地近くの袋町小学校平和資料館を見学した。その後、平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に市及び市議会の代表として生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。そして、平和記念資料館、原爆の子の像、原爆ドーム、被爆爆心地(島外科)、広島城の見学を実施し、初日の行程を終えた。

- 6 : 3 0 所沢駅集合
- 1 2 : 3 1 広島駅到着(新幹線にて)
- 1 5 : 1 0 平和記念公園へ
(献花、平和記念資料館や原爆ドーム等の見学)

8月6日(木)

式典当日は、早朝に宿泊場所を出発し、会場である平和記念公園に到着。

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、安倍首相、国際連合事務総長(代理)などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を合唱し、午前8時45分に閉会となった。

式典終了後、休憩をとり、帰路についた。

- 7 : 1 0 平和記念公園へ
- 8 : 0 0 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式開式
- 1 2 : 3 2 広島駅発(新幹線にて)
- 1 7 : 5 5 所沢駅着(解散)

なお、5ページから平和大使の皆さんの感想文を掲載させていただきました。

平和大使委嘱式



慰霊碑に献花



原爆ドームの前にて



「原爆の子の像」にて千羽鶴の奉納



式典の様子



平和大使感想文

(順不同)

「平和祈念式典参加事業を終えて」

大学1年 小澤 早紀

今回、この平和祈念式典参加事業のことは父に教えてもらい知りました。最終的に応募することを決めた際、私は、広島平和祈念式典への参加や原爆ドームや平和祈念資料館等を自分の目で見ることを通して、より平和について深く考えたいと思いました。また見聞を広げ、これから残りの3年半の大学生活をどのように使い、どのような分野を専門とするのかを見極めるきっかけにすることを自分の中で参加の目的としていました。戦後70年の節目にあたるこの年に大学生である私にしか感じられないことを大切に、世界から見える日本とはなにか、日本人として自分にできることはなにかを考える糧にしたいと強く思っていました。

しかしながら、今回参加したことで、その答えが見つかったかと言われると肯定することはできません。そもそも、知らないことが多すぎて、この2日間だけで平和について考えた気になるのではなく、これからも考え続けなければならないことを痛感しました。

今回様々な場所を見学することが出来ましたが、私は、もっとじっくり見たい、今回見ることが出来なかった平和記念資料館の東館も見学したい、実際に被爆された方のお話を直接聞きたい、といった思いが強く残りました。

それでも、今回の事業に参加したことから、私が何か言えることがあるとすれば、1人でも多くの学生にこの事業に興味をもっていただきたいということです。そして、遠く離れた地ではたとえ勉強したとしても感じられない“何か”をこの事業に参加することで得て欲しい、ということです。例えば、テレビで見る「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式典」と実際自分がその場にいることには大きな差があります。70年前に被爆し、廃墟のヒロシマとなった町とは考えられないような現在までの発展、今年が70周年だったこともあり、式典に参加する外国の方々の多さ、被爆したものを今自分が触っているという感覚など、話を聞くだけ、画面を見るだけでは感じられないことが、あげたらきりが無い程沢山あります。私も、この2日間で生じた明確に表現することのできない今の気持ちを大切に、事業に参加する際の自分の目的や目標に少しでも近づきたいと強く思います。そして、人よりも貴重な体験をさせてもらった者として何が出来るのか、と広島から帰って来てからも考えています。なぜな

ら、私たちは、実際に戦争を体験された方のお話を直接聞くことの出来る最後の世代です。今回参加したことで、後世にこの事実を伝えていく義務があり、責任がある、という今までは頭で考えていたことを身をもって体験することが出来ました。将来、国際平和を実現する一役を担い、国際貢献の出来る人材になるため、今回の経験や思いを絶対に無駄にしたくないし、無駄にしてはならないと思っています。本当にこの事業に参加できたことに心から感謝しています。

最後になりますが、この場をお借りして、引率して下さった所沢市経営企画部企画総務課 基地対策室 大館様、大島様、市議会議員 杉田様、西沢様には深く御礼申し上げます。皆様が、知らなかったことを色々と教えて下さったので、私には無い視点からも広島を見ることが出来ました。ありがとうございました。是非、この事業をこれからも続けていただきますようお願い申し上げます。

「平和推進事業に参加して」

中学3年 久米 結葉

この度、私は所沢市の平和大使として人生で初めて広島を訪れました。以前から興味があり、少し調べていたので、ある程度の事は知っていました。しかし実際に訪れてみて様々な物を見て体で感じ「平和、戦争、日常」への想いなど以前の自分が大きく変わったように思います。原子爆弾が生み出した沢山の事は様々な形で現在も残っていて70年経った今でも、その悲惨さ恐ろしさを変える事なく感じられました。

建物が立ち並び整備の整った広い道路にはきれいな花が咲き多くの人々でにぎわっている広島市内は、当時の面影などまったくなく「本当に70年前、この場所に原子爆弾が落とされたのだろうか？」と疑う気持ちになりました。一步一步地面を踏みしめる度に「今私が踏んだ地面を、当時、火災から逃げ惑い水を求め、命がけだった人々も同じ様に踏んだのか」と思うと何ともいえない、胸が押しつぶされるような気持ちになりました。

袋町小学校では校舎の一部や校庭などを見る事ができました。以前から一度訪れてみたかった平和記念資料館は東館がリニューアル工事中ということで見学することができず残念でした。人が多く、館内はとても混み合っていてゆっくりと観る事はできませんでしたがほとんどの展示品を見る事ができました。数多くの遺品は原爆のすさまじさを語っていました。佐々木禎子さんの折り鶴は予想以上に小さくて驚きました。時に針を使って折ったという事で、どれも丁寧に細かく折られていました。小さな小さな折り鶴達からは、禎子さんの生きたいという願いが強く感じられました。白血病の方の骨髄、ケロイド状の皮膚、爪など、写真では伝わらない、本物を見たからこそ伝わってくる資料もあり、考えさせられる事が多かったです。本などでよく見る皮膚が垂れ下がるという事が一体どのような事なのか想像がつかないのですが、被爆者再現人形を見て、その恐ろしさを知りました。全身の皮膚が焼け垂れ、肉がむけ出し、ところどころから血が滲み出ている、ボロボロの衣服を身にまとっている姿は、私には人間とは思えませんでした。当時の状況がどれだけ地獄のようだったか、私には想像することもできませんが、少しだけ分かる様な気がしました。原爆ドームは姿、形をとどめているとはいえ、大部分がなく、窓ガラスはもちろん中はすっからかんで、鉄棒がむきだしになっている廃墟の様な原爆ドームからはたった一瞬の爆風と熱線でこの様になってしまうものだろうか、と原爆の威力の強さを感じました。式典は多くの参列者で混み合っていました。その中には、外国の外、学生の団体も多く式典の規模の大きさを感じました。事業を通して沢山の資料を見ましたが、それらはたった、ほんの一部であり多くの人が沢山のつらい経験をしています。今年、被爆者の平均年齢は初めて 80

歳を超えました。直接話を聞ける、という事も数少なくなってきました。いつの日か、被爆者がいなくなってしまう日も遠くありません。被爆体験がない私達は当時の状況を資料を見たり、お話を聞いたりする事でしか知る事ができません。しかしまだ機会は残っています。一人でも多くの人がこの事の重大さに気付き、興味を持ち、話を聞く人が増えるといいなと思います。また、この貴重な体験をした私にはどんな事ができるだろう、何をすべきだろう、と考える様になりました。少しでも多くの人に伝えたり、興味を持ってもらったり、一緒に考えたり、私にもできる事が沢山あるのではないかと思います。

戦後70年という大きな節目である今年平和大使として特別な形で式典に参加する事ができ、二度とない本当に良い経験となりました。世界で初めて核爆弾が落とされた場所という事で、実際に訪れないと感じとることのできない多くの事をこの体で見て感じ吸収する事ができました。この2日間は忘れる事のない貴重な体験となりました。そして、所沢市代表の8人の皆さんと一緒に行って良かったです。この事業に関わり準備、担当してくれた方々に深くお礼申し上げます。参加させていただき、本当に有難うございました。

「平和祈念式典に参加して」

大学1年 篠原 果歩

戦争、原子爆弾、平和とは何か。今回の平和推進事業に参加したことで、これらのことについて深く考えることが出来ました。授業で習った戦争しか知らなかった私は、この日本で起こった戦争を深く知り理解したいと思っても過去の一つの遠い出来事のように感じてしまい、身近に感じる事が出来ずにいました。しかし、今回の事業で様々な場所へ行き自分の目で見て感じ経験し広島原子爆弾の脅威を目の当たりにすることで、私の想像をはるかに超える悲惨な出来事がこの日本で起こったのだということを感じることが出来ました。そして戦争という悲しい過去を知ったからこそ平和への確かな思いを自分の中に持つことが出来ました。

初めに訪れた袋町小学校は熱線を浴びたドアや、家族に会うために残した伝言板など当時のものが多く残されていました。爆風や熱線によって壊れた学校の備品や校舎が原爆の威力を表していました。原爆が、学校という私達にとって身近な場所に与えた脅威を直接見たことで、まぎれもなく原爆は、この広島に落とされ多くの人の命を奪い建物や物を破壊したのだ。原爆はすべてを奪う。袋町小学校で実際に自分の目で見ることで、原爆の恐ろしさをよりはっきりと感じました。次に訪れた平和記念資料館は改装工事のため本館のみの見学となりましたが、そこに展示されている遺品や再現模型など、全てが当時の広島を見ているようで本当に忘れることの出来ない時間でした。目をそらしたい気持ちと必死に戦いながら、当時の広島の姿を忘れないように、戦争を生き抜いてこられた方の苦しみを少しでも感じて共有しようと展示物と向き合っていました。最初は実際にこのような景色が当時あったということがどうしても受け入れられなく、驚愕の気持ちのほうが強く感じられていました。しかし、人や建物が溶けるほどの熱線や頑丈な建物も破壊してしまう爆風による影響を受けた遺品などを見ているうちに、あの時この広島で確かにこれを使い、生きている人がいて、この遺品などが原爆の恐ろしさを私たちに伝えてくれているのだと思うようになり、一つ一つの事実を自分の目で見て受け入れようという気持ちに自然となりました。

二日目には、平和祈念式典に参加し多くの方とともに黙とうし広島市長や総理大臣の話を聞きました。今年は戦後70年ということで例年より参加者が多いという話を聞いていましたが、海外の方もとても多く参加しに来ていてこの式典が世界的にも大きな意味を持つ式典であることを感じました。またそれと同時に日本は唯一の被爆国として、非核三原則のもとで平和主義を掲げていますが、他の核兵器を持つ国は平和についてどのように考えているのか、資料館を見てどう感じるのかを知りたいと感じました。まだまだ日本の中でも原爆の事

実を知らない人はたくさんいて、これから時間が経つにつれますます戦争の記憶が風化することが心配されています。資料館で見たような地獄絵と例えられるような苦しさも悲しさも私には想像もできないほどのものであった時にも必死に生き抜いてきた人たちがいて、忘れたくても忘れられず、今でも苦しい思いをしています。それでも戦争時を生きてきた人の多くが、私たちに戦争の恐ろしさや平和の大切さを伝えるために話して、戦争の記憶を私たちに繋いでいこうといてくれています。自分が経験した戦争について話すことは、忘れたぐらい辛い記憶を鮮明に思い出してしまうことだと思います。それでも私たちに話してくださるのは二度と戦争を繰り返してほしくない、戦争、核兵器がどんなに恐ろしいものなのかを知り、それらのない世の中を作ってほしいなどたくさんの思いがあって私たちに伝えてくださっているというように強く感じます。戦後、どんなに苦しくても生きてきて下さった人がいたからこそ今の私たちがいます。だからこそ私たちは、これからの日本が平和であり続けられるように努力する責任があり、私たちが平和と戦争について考えて生きることによって戦争の記憶を風化させず、平和への思いを繋いでいくことが私たちにしかできない、私たちのすべきことだと思います。

今回の事業に参加して、戦争について考えるきっかけをもらって、改めて戦争は間違っていると強く思いました。誰かを傷つけることは自分も傷つくことなのに、誰かを傷つけていることにも、自分の心も傷つき壊れてしまっていることにも気づけなくなるのは本当に悲しいことであるのに、敵を傷つけることでしか国も大切な人も守れない。という考えにいらせてしまう戦争というのは本当に悲しいものだと思います。そして今の世の中も力がなくては自分の国を守れないし、他の国より優位に立たないと強い国の言いなりにならなくてはいけなくなるかもしれないから、まずは自分の国を守る。自分の国を守ることで、より力のない国は苦しくなる。戦争は複雑な出来事が絡み合って起こったことだから一概には言えませんが、力でしか自分の国を守れないという世の中が起こしたもののよう感じます。そして、みんながお互いを思いやり、人の痛みを想像することが出来たら戦争のようなひどいことはできないのではないかと思います。戦争の記憶を私たち若い世代が繋いでいくと同時に心の豊かな温かい人が増える世の中をしたいです。戦争でたくさんのものを失ったし、多くの人が苦しんでいます。その悲しい事実をなかつたことにはできないけど、同じことを二度と繰り返さないことならできます。戦時を生き抜いて今を生きている人たちが経験した苦しみを包み込めるぐらいの平和を求め続け、行動することが、今を生きる私たちがすべきことだと思います。

「所沢市平和大使として広島平和祈念式に参加して」

中学2年 田中 大地

僕は平成27年8月5日・6日平和祈念式に参加するため、広島に行きました。広島は初めて行き、とても賑やかな場所でした。70年前この場所に原子爆弾が落とされたとはとても思えませんでした。

到着した5日には、広島平和祈念資料館・袋町小学校平和資料館・原爆ドームなどを見学しました。資料館では被爆した当時の様子がいろいろな形で残っていました。被爆した人々の傷あとや被爆の熱により溶けたガラス、トタン板、三輪車など当時のまま残されていて、原子爆弾の恐ろしさを感じました。被爆したたくさんの方が死に、また、生き残った人も、その後後遺症に悩まされたり、「被爆者」ということで差別されてきたことを知りました。

6日、広島平和祈念式に参加し100を超えるたくさんの国の人々が参加していて、平和への思いが世界であることを感じました。被爆経験者は80歳を超えてきています。日本は世界唯一の被爆国として、被爆の恐ろしさと平和であることを忘れてはいけなかったと思います。

広島市長の平和宣言のなかに、「広島をまどうてくれ！」とありました。これは、広島弁で「広島を戻してくれ！」という意味です。簡単な言葉かもしれないけれども、被爆者の悲痛な叫びとして心に残りました。人々も家族も、心も、故郷も何もかも1つの原子爆弾によりうばわれてしまったのだと思いました。今でも苦しんでいる人がいると思います。

また、小学生の平和への誓いに「私たちは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、考え、自分たちにできることから、「小さな平和」をつくらうとしています。もう一度、身近な友達、世代の違う人々、様々な国や地域に住む人々と、平和について共に考えてみませんか。」とあり、とても共感しました。僕も、何か小さなことでも平和について毎日の生活の中で考えていきたいと思っています。

この2日間で、自分の目で見て、自分の耳で聞いて、「平和」であることを幸せに思い、世界のどこかで起きている戦争が1日でも早く終わることを願っています。

日本が経験した、被爆は絶対に忘れてはいけなく、たくさんの人に知ってもらい伝えていかなければいけないと感じました。

戦後70年という節目の年に、とても貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

「戦後 70 年の広島を訪れて」

大学 2 年 横田 侑季

あの被爆の日からついに 70 年が経過した節目の年、私は広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に出席するために、所沢市に応募をしました。私はかつて第二次世界大戦の時に兵士として赴いた祖父が居たこと、小学校や中学校で出会った先生方から戦争に関しての話を聞くことが多かったため、小さい頃から戦争に関しての知識に触れる機会が多分にあり、更に小学校の 6 年生では合唱コンクールで「ヒロシマの有る国で」という歌を歌った経験があることから、将来広島に行つて実際に何があったのか確かめてみたいという気持ちが強かったのです。そして今回それが実現することとなりました。

初日は広島市の袋町小学校資料館や平和記念資料館を訪れました。小学校の壁に残された数々の伝言からは、当時の人たちが家族を探し求める様子が目に映るようで、悲しい気分になりました。また数々の折鶴や寄せ書きなどが保管されており、この小学校が未だに人々の心の中に根差しているのだということを再確認しました。資料館では、多くの原爆による爆風や崩壊した街並みの写真が展示してありましたが、それ以上にそれまでは伝聞や写真でしか見る事が出来なかった、被爆した人々の遺品や建築物の一部などが数多く展示されており、原爆が当時如何に甚大な被害を及ぼしたものであるのかをこの目で見る事ができた事がとても印象に残りました。ひしゃげた鉄の門、人の影が残された階段、ぼろぼろになってしまった衣服など、様々な展示物がありましたが、その中でも私が一番印象に残ったのは、お弁当箱です。被爆者が作業現場で被爆して亡くなったとき、そのお弁当箱をおなかの下に抱きかかえるようにしていたということです。お弁当箱の中身は真っ黒に焦げてしまっており、最期に母から受け取ったお弁当を抱えたまま死んでいったその方の事を思うと、私はその場でとても深い悲しみを覚えました。

その後、原爆ドームにも立ち寄りしました。学校の教科書では遠巻きに写された前からの全体像しか見る事が出来なかったため、ただぼろぼろになってしまった建築物であるという印象しか抱かず、現実味があまり感じられなかったのですが、実際に近くで見ると、人の侵入をシャットアウトしたその場所は、当時のものと思われる瓦礫などが多数残っており、爆風による被害の大きさをまざまざと見せつけられました。

二日目は広島平和祈念式典の当日で、我々は式典会場へと向かいました。道中にはいろんな人々が式典会場に向けて進んでおりましたが、そこには我々と同年代の方々だけでなく、小学生くらいの方々から外国人の方々まで本当に様々な地域から人が来ており、日本中はおろか世界中から人々が集まっているのだという事を実感しました。また、献花のための花を配るの方々もあり、私は

そこで花を受け取り、式典終了後にその花を捧げました。式典会場は道中以上に人が多く、煌々とした日差しが照り付ける中大丈夫だろうかと心配もしましたが、会場にはテントが張られていたため、直射日光を浴びる心配はなく、冷たい水や凍ったお絞りを配る方も居たため、熱中症の対策もしっかりしているのだと感じました。

そして式典では、いろんな国や地域から集まった人々が献花をし、広島市議会議長からの式辞、市長の平和宣言や子ども代表による平和への誓い、内閣総理大臣や広島県知事に国際連合事務総長といった方々からのあいさつがありました。その話のなかで、私は広島という場所が、そして日本という国が、被爆したという事実が風化しないように守り抜き、のちの世代まで伝え、核兵器の根絶に限らず世界平和に向けて行動をしているということを知らしめられました。戦後70年、日本が再び戦争の道を歩まなかったのには、戦後処理によるものだけでなくこうした行動もあったからこそであり、広島地から遠く離れた所沢の我々もまた、平和のためにできることを尽くしていかなければならないのだと思いました。

今回の平和祈念式典参加事業に応募し、実際に行ってみて一番感じたことは、教科書の文章や写真で教え学ぶことは確かに大切な事ですが、何よりもやはり一番大事なのは、当時の姿を残す遺留物や建築物、現地の人々の声をこの目この耳で実際に感じとり、自分の中で実感をしなければならぬことだろうと思いました。かつての私は教科書や写真で見ただけで、実際にどのような被害があったのか、そこに居た人々の苦しみとはなんだったのかを実感するに至りませんでした。それが今回の事業によって実感を得られたことは、何にも代えがたい大切な経験になりました。

今後もこの事業が続き、一人でも多くの人が原爆と戦争の実態を実感し、後世まで原爆と戦争に関する記録と記憶を守り続けていくことの助けになれることを、心より祈ります。

所沢市平和を語る会 （語り部派遣事業）



《平和を語る会（語り部派遣事業）実施概要》

【 概要 】

被爆体験者・戦争体験者の語り部による講話を市民の方に対して行い、平和の尊さ、命の大切さを訴えます。

市の施設で実施する場合は、市民の方を対象とし、小・中学校への派遣の場合は、児童・生徒を対象とした事業で、平和学習の一環として実施されています。

【 実施日 】

平成27年 7月 9日 宮前小学校 4年生

語り部：杉本孝一郎さん

8月15日 所沢市役所8階大会議室

語り部：杉本孝一郎さん

中島寿々江さん

10月 7日 山口小学校 3年生

語り部：杉本孝一郎さん

10月13日 牛沼小学校 6年生

語り部：中島寿々江さん

10月23日 小手指小学校 6年生

語り部：中島寿々江さん

10月29日 中央小学校 6年生

語り部：杉本孝一郎さん

11月 6日 並木小学校 6年生

語り部：中島寿々江さん

11月17日 所沢小学校 6年生

語り部：杉本孝一郎さん

11月17日 三ヶ島小学校 6年生

語り部：中島寿々江さん

- 1 1月20日 椿峰小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん
- 1 1月21日 北秋津小学校 6年生
語り部：杉本孝一郎さん
- 1 2月 1日 伸栄小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん
- 1 2月 3日 西富小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん
- 1 2月11日 南小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん
- 平成28年 1月15日 和田小学校 6年生
語り部：中島寿々江さん
- 2月25日 東中学校 3年生
語り部：杉本孝一郎さん

合計 16回開催 参加者数 1,549人

年度	実施回数	参加者数
平成20年度	14回	1,197人
平成21年度	12回	988人
平成22年度	12回	1,369人
平成23年度	12回	1,212人
平成24年度	12回	909人
平成25年度	12回	1,143人
平成26年度	12回	1,103人
平成27年度	16回	1,549人

講師紹介

なかしま すずえ
中島 寿々江さん

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家（大手町）に祖母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家（3kmほど離れた大洲町）に移っていたため大事には至りませんでした。祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さん（市内在住）

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生き残った者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから...

所沢市平和祈念資料展



《平和祈念資料展概要》

【概要】

市役所及び公民館において、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さの啓発をしました。

【開催期間および場所】

平成27年8月 1日～8月16日：市役所1階市民ホール

8月19日～8月24日：吾妻まちづくりセンター
三ヶ島まちづくりセンター

8月26日～8月31日：富岡まちづくりセンター
柳瀬まちづくりセンター

【展示内容】

《所沢市役所市民ホール》

- ・広島・長崎原爆写真パネル
- ・記録図書の見覧

《その他の施設》

- ・広島・長崎原爆写真パネル

資料編

所沢市平和推進事業の歩み

- 昭和59年 2月 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。
- 10月 市長ら一行が広島市を表敬訪問
- 昭和60年 8月 6日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 11月28日 所沢市広島原爆資料展を開催する。（中央公民館講堂）
- 11月30日 市制35周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。
- 昭和61年 8月 6日 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 昭和62年 1月 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。
- 8月 6日 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。
- 昭和63年 8月 6日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成 元年 8月 6日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8月 9日 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 2年 7月 1日 所沢市平和都市宣言制定（告示）
- 8月 6日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8月 9日 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 3年 7月30日 市庁舎広告塔に懸垂幕を設置する。
- 8月 6日 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 10月26日 第12回所沢市民フェスティバルに出展する。
- 平成 9年 11月13日 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。（市庁舎）
- 平成17年 8月25日 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。
- 平成18年 8月 8日 平和を語る会（語り部派遣事業）を開始する。
- 平成20年 2月28日 平和市長会議に加盟する。
- 平成21年 8月 6日 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成22年 8月 9日 市長が長崎平和祈念式典に参列する。

広島平和記念式典への参加については、昭和60年から毎年実施しております。

広島市旧庁舎被爆敷石について

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられてあった御影石でできた敷石が当市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。また、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。次の言葉とともに...

No more Hiroshima



MEMO



所沢市イメージマスコット
トコロん

平成 2 7 年度 所沢市平和推進事業のまとめ

平成 2 8 年 3 月発行

編集・発行 所沢市経営企画部

企画総務課（基地対策室）

所沢市並木一丁目 1 番地の 1

電話 0 4 - 2 9 9 8 - 9 0 3 3

E-mail a9033@city.tokorozawa.lg.jp